平成 27 年 10 月 6 日

浜田市議会議長　　原田　義則　様

議員名　　柳楽　真智子　㊞

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1．期　　間　　平成２７年　５月２０日（水）　～　５月　２１日（木）

2．視察又は訪問先

① 広島市立祇園東中学校　「生徒の自主性を育てる教育、環境づくり」

② 越智町立越智中学校　　「学力向上の取組、教務改革・授業改革」
（高知県）

3．調査経費　　13,723　円

宿泊費	5,200　円
自動車レンタル料	4,000　円
ガソリン代	1,527　円
駐車料金	220　円
高速料金	2,776　円

浜田市議会 受付 27.10.-6

視察先 ①　　広島市立祇園東中学校

【学校からの説明】

全校生徒　659名、教職員　49名の学校で、１年生７クラス・２年生６クラス・３年生５クラスと、特別支援学級３クラスの編成となっている。

広島市では数少ない自校給食の学校である。

現在目指していることの一つは、自立の力は繋がりの中で育つということ。特に学び合い・高め合うこと。心身ともに健康で繋がりを大切にすることである。

そして、将来社会人となった時に、自立した公民としての資質を養い、隣にいて安心できる大人になろうねということを大切にしたい。

建物、箱ものとしては古いけれど、箱ものの中に温かさを持てるような学習環境を作ること、さらには温かい言語環境を育てることが大切だと考えている。そういう中で生徒と教師が共同して高いレベルの学びのある学校、生徒が自主的に協力して活動する活気あふれる学校を目指している。そして、生徒・保護者・地域・学校が信頼で結ばれている学校、この３つを通して繋がり合う豊かで温かい場づくりを、教師と子どもたち、保護者・地域が一体となって作っていこうと考えている。

３年間を通してあいさつがきちんとできるようにしようねと話している。そして、夢中になれる学びの授業づくりに取組んでいる。行事を通したり部活動を盛んにしたら、子どもたちが礼儀正しくなるのではないか、というような話をよく聞くけれども、子どもたちが朝、学校の門をくぐってから学校が終わって帰るまでの間で、一番長い時間はを過ごすのは授業である。

であれば、その授業の時間でこそ子どもたちが変われる、または成長できる一番の時間になる。ということで授業を大切にし、子どもたちが夢中になれる授業を作っていくための、教材研究や言葉のかけ方や、目線を合わせることで子どもたちが安心して質問ができるようにしている。

コの字型の座席にしたり、４人１組の小グループでの活動を通し、「人の考えを聞く力」「自分の意見を伝える力」がついてくる。分からないと言葉に出して言えることが大切である。

教師は単に教科書をなぞるだけでなく、教科書をベースにしながら発展できる課題を見つけてきて、自分でアレンジする。目の前の子どもたちの状況に合わせて設問の仕方を考えるということをしている。そこで、目指す授業を実現するために、全教員が年１回の公開授業を行っている。

このような取組みの中で成績向上と共に、仲間を大切にする気持ちや自尊感情が豊

かになってきている。

【議員からの質問】

質問　最近では先生の多忙感が指摘されるが、部活動の顧問はどうされているのか。

答え　中には地域のスポーツクラブに行っている生徒もいる。学校としては経験のある教師ばかりではないので、部活動によっては地域から無償ボランティアとして来られる方もいる。

広島市では運動部活性化事業というのがあり、予算の中でボランティアの方に保険と指導料を支払っている事業もあるが、１校に１名～２名分の予算しかない。（予算の範囲以内ということ）それ以上は無償となる。

質問　授業はすべてコの字型の席や、小グループで行っているのか。

答え　体育だけは違うが、運動の中で起こる問題点については、生徒同士で改善点や修正点をグループで話すようにしている。

【感想】

子どもたちに大切なことは、将来社会人として生活できる基礎を身に着けることだと思います。そのためには勉強はもちろん、他人とのコミュニケーションの取り方、善悪を判断する力などを、学校や保護者・地域が連携して育てていくことが重要です。先生方のご苦労は半端なものではないと感じましたが、生徒の成長という結果をえられた時の喜びが、次への挑戦に繋がっていくのだなと教えていただきました。

視察先 ②　高知県越智町立越智中学校

【学校からの説明】

校長が赴任してきた時には、小学校・中学校ともに驚くほど学力が低かった。越智町は昔は飲み屋街だった影響もあり、環境はあまり良くない状況もあったが、赴任当時は少し落ち着いていた。教育長がよく言っているが、地域の教育力や文化を変えるのに「鶏が先か卵が先か」の例えのように、今の子どもたちなのか保護者へのアプローチなのかと考えた時、卵である生徒たちを育てて長期的に変えるしかないと考えた。

今では、学力が向上し多くの視察を受け入れたり、地域からも誇りとされ信頼され

ており、副町長はこれほど教育が、町にとって効果のあるものだと思わなかったと話している。

４年前くらいに一貫校の研修の講師で来た時には、小中が隣同士の校舎でありながらとても仲が悪かったが、今年から給食の共同調理場ができて、小学校と中学校を繋ぐ通路ができ、上履きで行き来できる環境ができた。小学校と連携して改革を進めている。小中一貫校は連携の難しさはあるが、うまくいけば飛躍的な成果が出せる。どうカリキュラムを作るかということと、教職員の意識改革が重要である。

教育の出発は小学校である。教育が進んでいる地域は、小学校教育がすごい。小学校を卒業する時に、小学校でつけるべき学力や姿勢や豊かさを、きっちりつくっておくことが連携である。それに尽きる。例えば小学３年生で身につけなくてはならない小数や分数が、中学１年でついていなければ追いつくのは難しい。本当の意味で小中一体になるということは、両校を無理にすり合わせるのではなく、小学校でやるべきことはきっちりやれるようなシステムをつくることが大事である。子どもは習ったことを使わないと忘れることもある。小学校の６年間の中でも、前年度の学習を振り返ることは大切である。義務教育の中でできていなければ、中学生であっても小学校の内容をやることにしている。

授業では班活動を通して、自分たちで「考える力」を養い、コミュニケーション能力や自己表現力をつける取組みをおこなっている。

教職員は子どもたちに、学力や知識を付けるだけでなく、教科に合わせた生活力・人格を育てるようなカリキュラムをつくっている。公務員的な考えは無くし、自分の授業や失敗をオープンにすることが大事なことで、失敗してもそれを成功に導けばいいのである。

当たり前にきちんとやれば、必ず結果は出る。教育ほどやったことが如実にでるところはない。

【感想】

小学校での基礎教育ができていなければ、中学校の学習に大きく影響することを考えると、小学校教育のあり方をしっかりと見直す必要があると思います。学習に遅れのあるこどもの放課後学習の充実も必要だと考えます。学力向上の成果の出ている学校では学力だけでなく、社会に出た時に必要なコミュニケーション能力などをつけることにも力を入れておられます。学力と人間力の両方がついてこそ、子どもたちがより成長できるのかもしれないと強く感じました。